



竹

取 次の文章は、くらものの皇子が翁の家で、蓬萊の珠の枝を手に入れるまでの作り話物をしている場面である。これを読んで、との間に答えよ。

語 ①これやわが求むる山ならむと<sup>②</sup>思ひて、さすがに恐ろしく<sup>③</sup>おぼえて、山のめぐりを<sup>④</sup>

蓬 さしめぐらして、二、三日ばかり、<sup>⑤</sup>見歩くに、天人のよそほひしたる女、<sup>⑥</sup>山の中よりい

萊 で来て、銀の金鏡を持ちて、水をくみ歩く。<sup>⑦</sup>これを見て、<sup>⑧</sup>船より下りて、「<sup>⑨</sup>この山の名

の を何とか申す。」と

珠 の <sup>⑩</sup>問ふ。女、<sup>⑪</sup>答へていはく、「これは、蓬萊の山なり。」と

枝 <sup>⑫</sup>答ふ。<sup>⑬</sup>これを聞くに、うれしきことかぎりなし。

前 問1 傍線部①「これやわが求むる山ならむ」を、現代語に訳せ。

これが私の探している山だろうか

編 問2 傍線部②「思ひて」とあるが、これは誰の動作か。

くらものの皇子

問3 傍線部②「思ひて」とあるが、何と思ったのか。思った内容が書かれている部分を、本文中から十二字で抜き出せ。

これやわが求むる山ならむ

問4 傍線部③「おぼえて」とあるが、これは誰の動作か。

くらものの皇子

問5 傍線部④「さしめぐらして」とあるが、これは誰の動作か。

くらものの皇子

問6 傍線部⑤「見歩く」とあるが、これは誰の動作か。

くらものの皇子

問7 傍線部⑥「山の中よりいで来て、銀の金鏡を持ちて、水をくみ歩く」とあるが、これは誰の動作か。本文中から五字以上、十二字以内で抜き出せ。

天人のよそほひしたる女

問8 傍線部⑦「これを見て」とあるが、これは誰の動作か。

くらものの皇子

問9 傍線部⑦「これを見て」とあるが、「これ」が表す内容を、四十五字以内の現代語で書け。

天人の服装をした女が、山の中から出てきて、銀のおわんを持って、水をくみ歩いていること。

問10 傍線部⑧「船より下りて」とあるが、これは誰の動作か。

くらものの皇子

問11 傍線部⑨「この山の名を何とか申す。」を現代語に訳せ。

この山の名を何と言いますか。

問12 傍線部⑩「問ふ」とあるが、(1)誰が (2)誰に尋ねたのか。それぞれ五字以上で書け。

(1)くらものの皇子

(2)天人のよそほひしたる女

問13 傍線部⑩「問ふ」とあるが、問うた(尋ねた)内容を本文中から、十二字以内で抜き出せ。

この山の名を何とか申す(。)

問14傍線部⑪「答へていはく」とあるが、(1)誰が (2)誰に 答えたのか。それぞれ五字  
以上で書け。

- (1)くらもちの皇子
- (2)天人のよそほひしたる女

問15傍線部⑫「答ふ」とあるが、答えた内容を本文から十二字以内で抜き出せ。  
これは、蓬莱の山なり。

問16傍線部⑬「これを聞くに、うれしきことかぎりなし」を、指示語が表す内容と、誰も  
動作かを明らかにして、五十五字以内で現代語に訳せ。

天人の服装をした女の、「これは蓬莱の山です」という言葉を聞いて、くらも  
ちの皇子は、うれしくてたまらなかった。